

第1回 肝臓病教室

奈良県内で初めての肝臓病教室が市立奈良病院におきまして平成21年9月4日に開催されました。

何もかも初めてのことで、何度もスタッフと講演内容や会場準備の打ち合わせを重ね何とか当日を迎えることができました。その結果、初回にもかかわらず34名の受講者の皆様にお越しいただきました。

今回の肝臓病教室のテーマは、奈良県では約2万人いるといわれている「C型慢性肝炎」です。



会議室において

まずは、角田圭雄医師より「C型肝炎の概要とインターフェロン治療」について講演されました。

今では、「C型肝炎」もインターフェロン治療で完治する確立が高まっており、また、「難治性」とされていたウィルスのタイプもペグインターフェロン+リバビリンの併用療法で70%効果が得られるとの結果を報告して下さいました。

昔は治療費が高額であるとされていましたが、現在は(2010年1月現在)国が助成制度を設けており誰でも治療を受けやすくなっているということです。



角田医師講演

次に、検査科の松本克也検査技師より「肝機能検査、HCV関連マーカーの見方」について講演がなされました。

普段は、数字のみで示される検査項目についてイラストを用いたわかりやすい説明がなされ、また定期的に検査することで肝臓の状態を正しく知ることが的確な治療に取り組むためにも大切であるということです。

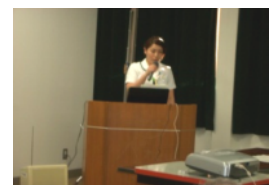


松本検査技師講演

続いて、阪本知佳看護師より「ペグインターフェロン、リバビリン併用療法の副作用の対処方法」について講演がなされました。

インターフェロンの副作用として、よくみられる症状に発熱、全身倦怠感、かゆみ、抑うつ状態、間質性肺炎が出る場合があること。

副作用が出た場合は医師、看護師に必ず相談してくださいとのことでした。



阪本看護師講演

最後に、栄養科の藤本修也栄養士より「インターフェロン療法中の食事」について講演がなされました。

まずは、自分の適正体重や食事の好みを知ること、つまり自分の身体のことをしっかり把握することが必要とのことでした。



藤本栄養士講演

参加者はメモをとったり、質問コーナーでは積極的に質問がありました。

これからも、「C型慢性肝炎」の啓発・啓蒙活動のために肝臓病教室を開催していきたいと思えます。



当日、配布された資料